

idea

ニュースレター「アイデア」

2019.11

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 吉田真童さん
- 3 | 団体紹介 | 摺沢寿会
- 5 | 地域紹介 | 仏坂自治会(千厩)
- 7 | 企業紹介 | 株式会社 TKT(室根)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域協働体とは？
- 9 | センターの自由研究 | 仕事の流儀「養蚕」

今月の表紙

数えきれない程の繭たち。1個の重さ約2グラムのこの繭たちは1キロ2000円～4000円で出荷されます。この1つの繭ができあがるまでにどれくらいの時間がかかるかみなさんご存知でしょうか？養蚕農家さんの並々ならぬ苦労の工程を「自由研究」にてご紹介いたします。

idea

発行 いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ: <https://www.center-i.org/> メール: center-i@tempo.co.jp

お知らせ

講座 ◆ まちづくりコーディネーター養成講座 第5回目は「事務局のおしごと」をテーマに、「もし自分が団体の事務局になったら？(任意団体含め)」と想定し、人を雇用した場合に行う手続きなどをストーリー仕立てで学んでいきます。すでに団体の事務局を担っている方はもちろん、これから担う予定の方、団体を立ち上げようとしている方などのご参加をお待ちしています。 日時: 2019年11月9日(土) 9時30分～12時30分 場所: なのはなプラザ 4階会議室 参加料: 2,000円(全5回分) 主催: いちのせき市民活動センター 問合せ・申込: 0191-26-6400 ※要申し込み	コンサート ◆ 中学2年生に贈る 新垣勉 おしゃべりコンサート 9 テノール歌手の新垣勉さんは、生後間もなく不慮の事故で両眼を失明し、両親の離別や祖母の他界により14歳の若さで天涯孤独の身となりました。現在は逆境を乗り越え、自分を救った音楽の素晴らしさを伝えるコンサートを全国で行っています。大人のご来場も大歓迎です。 日時: 2019年11月13日(水) 13時開場 14時開演 場所: 一関文化センター 大ホール 入場料: 一般3,000円、60歳以上2,000円、福祉券1,000円 主催: 中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会 問合せ: 090-5231-4333(吉田)	講演 ◆ ICTは機械ではなく機会です ～ことばだけがコミュニケーションではない～ 講師に高橋宜盟さん(一般社団法人結ライフコミュニケーション研究所)を招き、子どもから大人まで病気や障害のある方々がICTを利用して日常生活が便利になった事例や、コミュニケーションとICTについてのお話をいただきます。高橋さんが開発された指伝話の体験会も行われます。 日時: 2019年11月10日(日) 13時30分～15時30分 ※指伝話の体験会は後援会終了後、希望者で行います(～16時30分)。 場所: 一関学習交流館 多目的ホール 参加料: 無料 主催: ぽけっとの会 問合せ: 090-2608-0299(千葉)
絵画作品展 ◆ てんとう虫・展11 一工房てんとう虫の仲間たち一 毎年恒例となりました、工房てんとう虫利用者の絵画作品展を開催します。絵画は、利用者それぞれが選んだ題材を色鉛筆やパステルなど好みの画材を使い、感性豊かに表現。多様なアート作品が見る人の目を楽しませます。 期間: 2019年11月16日～25日 ※11月19日(火)は休み 場所: ギャラリー彩画堂 (一関市地主町3-35 コスモビル1F) 入場料: 無料 主催: NPO法人アートで明るく生きるかわさき 問合せ: 0191-43-4733	イベント ◆ もり 第12回 森林の収穫祭 林業への関心を持ってもらうことを目的に毎年開催。今年の目玉は「森の機械に乗ってみよう!」。丸太の早切り競争や木工体験、大東しいたけや猿沢ようかんの販売なども予定。正午からは芋の子汁のお振舞い、午後2時からは餅まきを行います。 日時: 2019年11月17日(日) 10時～14時30分 場所: 東磐木材流通センター (大東町摺沢字百目木(木工団地内)) 入場料: 無料 主催: 一関地方森林組合 問合せ: 0191-75-3100 (一関地方森林組合 事業本部)	講習 ◆ 「レク式体力チェック」を学んでみませんか! いつでも・どこでも・だれもが・楽しく簡単に「自分の体力」を把握し、みんなとコミュニケーションを図りながら継続的に結果を確認できる「レク式体力チェック」を体験できる機会です。 日時: 2019年12月7日(土) 10時～15時(休憩1時間含む) 場所: サン・アビリティーズ一関 参加料: 200円(保険代) ※普及指導員認定を希望する方は、認定料1,000円が必要です。 申込締切: 2019年12月3日(火) 主催: NPO法人グッジョブクラブ／一般社団法人新潟県クレーン協会 申込・問合せ: 090-9749-0929(萩田)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「期間限定!庭先花屋さん」



花泉町金沢・菅の平集落を走っていると突如道路脇にお花屋さんが! 地域貢献の一環で、お盆とお彼岸等の時期だけ出売しているのだそうです。なんとも可愛いらしい行まい、時期になったらぜひ立ち寄りください。

Q&A

みなさんの「知りたい」にスタッフが応えます。

「後援」「協賛」「協力」の使い分け方を教えてください

一般的には以下のように使い分けます。

【後援】公共団体や報道機関による場所の提供や取材なども含む人的・物的な支援。実務的な役割を担わないことが多く、社会的信用を得るための名義貸しの意味合いが強い。

【協賛】人的・物的な支援を行うスポンサー。金銭的なサポートを担うことが多い。

【協力】イベント実施のための特定の役割を、ボランティアなどで携わった団体や個人。

137 / 115,822
吉田真童

千葉県出身、一関市山目で育つ。脚本家を目指してコンクールに応募を続け、2010年、第3回WOWOWシナリオ大賞で優秀賞を受賞。同年、第35回創作テレビドラマ大賞でも大賞を受賞し、その作品『夜明けのララバイ』が2012年3月にNHKにて放送される。2018年9月に小説「天下にきらら 幕末少女伝」(文芸社)を出版。花泉町駒場在住。



第65回

吉田真童(よしだしんどう)さん × いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

「日のあたらない」経験を武器に ～地道な努力で成功をつかむ～

脚本家の肩書を持ちながら、岩手日日電子新聞にて書き下ろし時代小説「いけころし」伊達男捕獲帳」を連載中(第2話が10月16日よりスタート)の吉田真童さん。プログラマーとしての一面も持ちウェブ制作などの仕事も請け負う吉田さんに、脚本家という世界について、そして近年注目が高まるフリーランスでの生き方についても伺いました。

小野寺 市内には随筆投稿含めアマチュアの執筆活動をしている人はいても、書籍にしたり、ましてやドラマ化された人は少ないと思うのですが。

吉田 僕の場合、表に出るのが嫌な人間で、人の前にたつようなことはできるだけやりたくないの文章を書いてるんです。そもそもは小説家ではなく脚本家を目指していたんです。テレビドラマの全盛期世代なので、テレビドラマに憧れていて。

小野寺 同世代なのでわかります。社会問題をテレビがちやんと取り上げていた時代ですね。

吉田 そう、今じゃ絶対にできないようなヤツ(笑)だからコンクールで大賞をとった僕の企画も「とがっている」と言われて、ドラマ化する過程でプロデューサーとディレクターに全否定されましたよ。

小野寺 コンクールで賞をとる

に言うコミュニケーションが苦手なのでそうなりたかった。

小野寺 吉田さんのような仕事の仕方を求める子は少なくないですし、これから増えていく気がします。今はフリーランスの仕事を紹介するウェブサイトなどもありますし。

吉田 かつこいい言い方をすれば、僕みたいにモノを書くとか、プログラミングとか、クリエイティブな仕事が一関にいてもできるということ。ただフリーランスでやっていくための入り口を作るのは簡単ではないです。

小野寺 フリーランスでやるには商品化できるくらいの技術がなきゃダメで。それには吉田さんのような落選経験も大事。ビギナーズラックで賞をとったって2番目3番目を生み出せない。最近の若い子たちは勢いで何かをしてしまいがちで、1発目は上手くいっても、中身がないから次に続かないことが多い。実力が伴う「職人気質」に自分たちもこだわりたいと思ってます。

吉田 僕も夢の場所として目指

ことが脚本家の入り口ですか？

吉田 はい。ただ、なつてはじめてわかったんですけど、受賞はスタートであつてゴールではなかったんです。2〜3年で賞をとれると思つてコンクールに応募し続け、結果10年かかつてようやく賞をとつて肩書をもりました。ところが、そこから辛かった。脚本家は小説家と違い、枠が決まっているので間口が狭い。ここでは言えないような熾烈な争いがあるんです。

小野寺 やはり当時のテレビ局は強かつたんですね。

吉田 だけど昔はテレビ局の企画会議の中で使う企画書にも原稿料が発生し、それで脚本家は生計が成り立ってたんです。それが、僕の時代にはそういう仕組みはなくなつていて、タダ働きの我慢対決のような状態に。僕はそんな我慢対決が無理だなと思つてやめました。こうして脚本家を育てる環境がなくな

した場所がいざ辿り着いたら違つていたわけですが、違つていたらそのスキルを使つて違うことをすれば良いだけだし、物書きしてるのが意味がなかったものとは思わないです。

小野寺 活字離れと言われますが、物書きの立場からはどう考えていますか。

吉田 基本的にウェブだつて活字でできているし、若い人もスマホで活字を読んでいるわけで。紙で見るかネットで見るかというのであつて、文字であることに変わりなく、古代からの文字に代わる最上の情報伝達技術はないと思いますよ。

小野寺 結局は人の感動の部分ですよ。どんなに進化してもアナログの部分は変わらないというか。

吉田 そうですね。デジタルも使うのは人なんです。最後に試されるのは人間力です。ひたむきに歩いた跡が、道になるんだと思います。

つたために今のテレビはつまらないんだと思うんです。

小野寺 社会の構図が変わつてきていますよね。昔はヒトを育てようとか良いモノを作つていくという機運がきちんとあつたのに、今はコスト削減重視。

吉田 こつちに言わせると、あなた方は畑を焼き尽くし、新しい種もまかないでいながら「実りがないな」なんておかしい話だ。

小野寺 豊かな時代になつてしまったから、あちこちにベースはできていて、パズルを当てはめるように物事ができていき、ブラッシュアップと言いつつアップグレードしてるだけ。人が育たない環境ですよ。

吉田 今の仕組みはライン生産の組み立て作業のようなもので、誰に頼んでも一緒になるようなものばかりで、そこに魂はこもらない。

小野寺 こういう話は今の若い子たちには大事で、華やかな世界に思われていても、ストレー

小野寺 東京の仕事で遠隔操作で行うわけですよ。

吉田 はい。プログラムを書き換える、構築するという仕事なので、ネット環境さえあればどこでもできます。なので基本的に僕は家から出ません(笑)逆

団体紹介

元気づくり・仲間づくり・賑わいづくり

摺沢寿会

昭和36年に発足した大東町摺沢地域の老人クラブ。「高齢者の雰囲気明るく活動的なものに」と、「摺沢寿会」と命名。平成30年度から展開している事業「ことぶきカフェ」は地域内外から関心を集めています。

〒029-0523 一関市大東町摺沢街道下25-3
TEL 0191-75-2229（摺沢市民センター内）

左の写真：第4火曜日担当のカフェスタッフと役員（上右端：前会長 菊池重志さん）



「できること」が
増えていく楽しさを

「80歳代は青年部！」と元気な声とともに笑いが巻き起こる、とある場所。大東町の玄関口である摺沢駅に隣接している売店跡（施設は一関市が所有）です。摺沢寿会は、平成29年から月に2回、摺沢市民センター2階の休憩スペースを利用し、老人クラブ活動や市民センター事業が終わった後に立ち寄れる「お茶つこの場」を展開してきましたが、摺沢振興会（平成26年設立）からの支援を受け、平成30年度からは空き店舗を利用して「ことぶきカフェ※」を運営しています。

今回お話を伺ったのは、長年（平成23年～平成30年・4期8年）摺沢寿会の会長を務め組織体制の改革を遂げた、前会長の菊池重志さんと、今年度から会長となった菊池幹雄さん、同じく副会長となった菅原剛一さんにカフェを立ち上げた背景や地域との関わりについてお話を伺いました。

摺沢寿会

※居場所づくりとしてのサロンのようなものであり、喫茶店として営業しているものではない

元気の源！ 3つの部会とクラブ活動

「当会は摺沢地区民で60歳以上（活動の趣旨に賛同していれば50歳代からでも可）であれば、どなたでも会員となれますが、その年齢の方々には現役で仕事をしている方もいるので、新加入は多くありません。むしろ、自然的減少が多くなり、平成23年時点では約380名いた会員も現在は約240名となっています」と語るのは、現会長の菊池幹雄さん。「今年度から副会長と共に新役員体制となりました。これまでの活動を引き継ぎながら、時代に見合った新しい形を模索し高齢者と地域の交流を今後も深めていければ」と続け、副会長の菅原剛一さんは「一人暮らしの高齢者や老々世帯もますます増加する昨今、出来るだけ外出し交流できる機会を設けるなど共に支え合う環境づくりも大切にな

ってきています」と現状を語ります。

摺沢寿会は、第1寿会～第9寿会まで行政区毎に下部組織が分かれ、それぞれ活動していますが、平成23年から「集落を越えて、高齢になっても得意なことを自分たちで続け、地域で元気に暮らしていこう」という目的のもと、組織内に「摺沢悠遊クラブ」を設けました。これは、前会長である菊池重志さんが中心となり立ち上げたもので、写経クラブ・手芸クラブ・生花クラブ・カラオケクラブ・太極拳クラブ・踊り同好会・川柳三句会・健康ダンスクラブと、内容は多岐に渡ります。

また、平成29年からは3つの部会（健康づくり部会・友愛部会・奉仕部会）を組織し、会員間の役割分担を明確にしました。「クラブ活動においては、それぞれ自分の好きなこと（趣味の延長線）ができるということと立ち上がりはスムーズでしたが、部会においては、体制を整えるまでに3年ほどの時間を費やしました。組織改革というほど大きなものではありませんが、『ただ高齢者が集まり、好きなことだけをしている場』というイメージから、自分たちが生まれ育った地域だからこそ『少しでも恩返し』のため、地域貢献できる体制を整えたいという思いがあったからです」と前会長の菊池さ

んは当時を振り返ります。

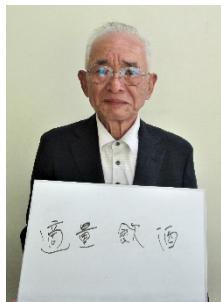
みんなみんな 「寄っていがいん」

「誰もが気軽に立ち寄って交流を楽しめる場にしたい」そんな思いから始まった「ことぶきカフェ」は、毎回40人ほどが訪れ賑わいを見せています。美味しいコーヒー（なんと！コーヒー豆は盛岡から仕入れるほど本格的）を片手に、世間話に花を咲かせ盛り上がりします。

「地域の高齢者サロン活動の現状では、男性がなかなか参加しない（したがらない）」という話を聞きますが、ここは男性も多く訪れ、一緒になって賑やかに話をしていきます。また、地域の保育園や幼稚園などの園児や駐在さん、バスや電車を利用する摺沢地域以外の方にもお立ち寄りいただいています。地域の人々がふれあい、情報交換できる場として少しずつ浸透しこの活動をはじめて良かったなと思います」と、副会長の菅原さん。ことぶきカフェは奉仕部会を中心としており、「地域のみなさんが立ち寄れる場」と立案したのが菅原さんでした。「ことぶきカフェで元気な雰囲気を感じてもらい、地域全体が元気になっ

あなたの「元気の秘訣」とは？

会長



きくちみきお
菊池幹雄さん

会長歴：1期1年目
「元気の秘訣と言えば晩酌」ということですが「飲み過ぎは注意。何事も適量に」と添えていただきました。

副会長



すがわらごういち
菅原剛一さん

副会長歴：1期1年目
趣味はグラウンドゴルフのほか「鮎釣り」で、鮎釣り歴は75年のベテラン。「鮎を食う会」も結成しています。

ていくことが今後の目標です」と語るお三方。ぜひ、第2・第4火曜日は大東町の玄関口、摺沢駅隣接の「ことぶきカフェ」を訪れてみてはいかがでしょうか。

- Photo



今年で第50回目の運動会を迎えました。第1～第5寿会が赤組、第6～第9寿会が白組となり、白熱した対戦となりました。

摺沢寿会運動会



運動会も自分たちで
摺沢寿会運動会の前日準備の様子。健康づくり部会が中心となり、すべての段取りや準備を会員のみにで行います。

gallery -



手づくりのおもてなし
協力を募金箱に入れれば、飲み物やスタッフ手作りのお茶請け（がんづき・蒸かし芋・お漬物など）をいただけます。



毎月第2と第4火曜日の10時半～13時頃まで開店している「ことぶきカフェ」。店先ののぼりが開店の目印です。

カフェにいらつしゃい

地域紹介

ホンによいところ仏坂（『新仏坂音頭』より）

ほとけざか 仏坂自治会

昭和60年設立。59世帯191人が暮らす農村地域。総務部、産業部、福祉厚生部、体育文化部、青少年部、女性部、高齢者部と自主防災組織で組織されています。

左の写真：毎年秋に防火訓練、芋の子会と合わせて行うさなぶりスポーツ大会



緑と水、花が彩る仏坂

千厩町磐清水地区内で大東町と東山町に隣接する仏坂自治会。地区内には「磐清水」の由来でもあり、長寿を保つ霊水といわれる「仙翁水」が湧き出る、自然がきれいな地域です。そんな緑豊かな仏坂を彩る「まごころ花壇」について、「自治会で特に力を入れている活動です」と話すのは自治会長の伊藤仁志さんと前自治会長で現在は自治会運営委員、行政区長を務める亀卦川一男さんです。

花壇は、福祉厚生部が中心となり、毎年テーマやレイアウトを考え、各班が協力しながら管理をしており、一関市の花いっぱいコンクールでは、千厩町内の一般花壇部門で何度も最優秀賞を受賞しています。「自治会長は自分の代で賞を逃すわけにはいかないというプレッシャーもあるね」とお二人は笑顔を見せます。

今回は、自治会活動を牽引するお二人に、仏坂自治会のこれまで

仏坂自治会

千厩

声を掛け合い、今いる人でやれることを

「仏坂は団結力がすごい」と話す伊藤さん。大人はもちろん、年間を通して子どもたちと一緒に取り組む活動も盛んです。

4月には仏坂内にある多賀巣神社の例大祭に自治会でも協賛として参加しており、神輿を集落センターから神社に運ぶ際には、大人の神輿のほかに子どもも俵神輿（神輿に俵を乗せたもの）を担ぎます。近年、少子化で仏坂内の子どもだけで俵神輿を担ぐのは難しくなっていました。子供会育成会が自発的に磐清水地区内の他の育成会にも声をかけ、一緒に神輿を担いでいるそうです。秋には防火訓練、芋の子会と合わせて行うさなぶりスポーツ大会や、年末のしめ縄づくりなどにも親子での参加が多いそうです。

「少子高齢化はどこも同じだが、

いる人達で何をやるかが大切。『事業をやめてしまおう』という声があることもあるが、最終的にはいつもみんなでまとまる。何かをやめるならそれに代わるアイデアを出さなければ」と伊藤さんは語ります。

地域の応援歌

「新仏坂音頭」

同自治会では昨年、仏坂に伝わる「新仏坂音頭」の普及活動に取り組んでいます。きっかけは「磐清水梅の里地区民祭」での地区内の文化や歴史をテーマにした郷土劇「磐清水物語」。平成29年度は仏坂にある愛宕山がテーマでしたが、劇の内容を考えていく中で「そういえば仏坂には音頭があった」と思いだし、劇の中で仏坂の人達が踊ることになりました。

初代仏坂音頭は既存の曲の替え歌でしたが、昭和63年にオリジナルの仏坂音頭を作ろうと仏坂音頭制定委員会を設置し、自治会内で歌詞を募集。8件の応募があり、当時仏坂にお嫁さんに来た小力カツヨさんが考えた、仏坂の名所などが散りばめられた歌詞が採用され、平成元年に「新仏坂音頭」が完成しました。

自治会婦人部（現女性部）が誰でも気軽に踊れる振り付けを考え、その年の仏坂の盆踊り大会で披露されましたが、それ以来、披露する機会が減っていき、いつしか存在自体忘れられていました。

地区民祭での発表を機に改めて地域に伝えていこうと、長く使えるようにカセットテープからCD化し、CDジャケットには磐清水のシンボルでもある梅の花の写真を採用しました。

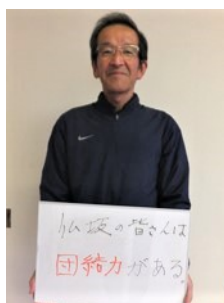
自治会内で注文を取ったところ、ほとんどの世帯から注文があり、県立図書館にも寄贈。それ以来、8月に集落センターで開催する自治会の夏祭り・盆踊り大会にて、子どもからお年寄りまでみんなで輪になり踊っています。

新仏坂音頭の歌詞の最後は「秋の取り入れ済んだなら可愛いあの娘が嫁に来る 住めば都と人は云う未来（あす）へ伸び行く仏坂」というフレーズで締めくくられます。

亀卦川さんは「仏坂では、仏坂集落営農組合を結成し、昨年からは田んぼの区画整備事業が始まっている。集落営農をやっているか不安の声もあるようだが、新仏坂音頭を新しい農業が始まる仏坂の応援歌にして

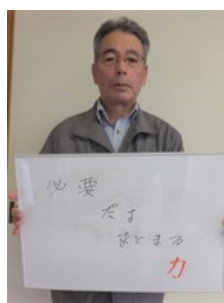
Q. 集落の自慢は何ですか？

自治会長



いとう ひとし
伊藤仁志さん
3期5年目。若者時代から青年部「仏坂WAGASITAZU」を組織するなど自治会活動を引っ張ってきました。

自治会運営委員・行政区長



きけかわ かずお
亀卦川一男さん
伊藤さんの前に3期自治会長を務め、現在も役員として自治会活動を支えています。新仏坂音頭のCD化には孫の耀平くんも協力。

いきたい」と今後の展望を語ってくださいました。

- Photo

gallery -



亀卦川さんの奥様が先生を務めるお茶会は女性部を中心に開催。「元氣な女性部もこの時はおしとやかに」と伊藤さん。

毎年開催するお茶会



盆踊り大会

復活した「新仏坂音頭」をみんなで踊っています。自治会長さんも輪に加わり、輪が二列になるほど賑わったそうです。



例大祭での俵神輿

多賀巣神社へ奉納する俵を運ぶ俵神輿は子供会育成会で声を掛け合い、仏坂以外の磐清水地区の子どもも協力して担ぎます。



ここ数年花いっぱいコンクールの賞の常連になっている花壇づくりは、自治会の一体感の醸成にもつながっています。

まごころ花壇

平成25年12月設立。農業部門の拠点を室根町に置き、ピーマン生産事業とビニールハウス事業の二本柱で運営しています。代表取締役の小野寺隆好さんは現在33歳。高校卒業後、関西の電気工事会社に就職し、主にディズニーランドの電気工事を担当していましたが、様々な人との出会いから「自分は将来どんなことをしたいのか？」と模索する中で「新しい農業経営の形」に着目しました。社名には、立ち上げに関わった3人（現役員）の頭文字を用いています。

「農業の経験がなく、知識も技術もゼロからスタートした」という同社ですが、地域の方々に助けられながら目指すべき地域農業のイメージが確立し、若い力でその規模を着実に広げています。

農業で困っていることをサポートできる企業体に

思い描いた事業が
現実のものに

「農業に関してはまだまだ技術経験が不足していますが、目指すは『ピーマン農地100a』です」この力強く語るのには、株式会社TKT代表取締役の小野寺隆好さんです。平成28年から始めたピーマン生産事業は、自宅前の農地6aからスタートし、現在は23a、次年度からはピーマンでは市内最大となる70aと作付面積を着実に拡大しています。同社は千葉県浦安市で起業、平成25年から平成28年までは主に金融・不動産の運用を行い、その中で様々な手続きや経理等を学んだとのことですが、「いずれ地元に戻り農業をしたい」という強い希望から、もともと部門の一つに農業運営も計画していたと言う小野寺さん。農業経験がない中、比較的若者の取り組みが少なかったピーマン（当時は生産者の平均年齢が65歳以上で、若者の生産者は市内で2人程度だった）に着目。「ピーマンは他の作物と比べて比較的軽量であることから『収穫後の移動がスムーズ』というメリットと『作業に手数が必要』というデメリットが逆に、『雇用を生み出せる農業の新しい形』になるのでは」と

らめいた」と当時を振り返ります。現在、母体農地（室根・藤沢に2か所）で就労している16名（パート従業員含め）の他、拠点生産農家（農地や農業等すべての資材投資は同社が、農地提供と収穫のみを農家が行い、収穫したピーマンは規格外も含め全て買い取りするという仕組み）4軒の契約があり、今後は後者を増やし農地拡大を図っていく方針です。また、収穫したピーマンは母体農場に設置されている選果機で選別され、規格品はJAへ、規格外品は宮城県のスーパー2社50店舗に全量買い取りの契約を結んでいます。こうした仕組みの構築は、後継者不足に悩む農家や、農業に取り組みたいと考えている若者などの支援にもつながっています。

地域農業に必要とされる 環境を整備

「高齢になりハウスの修繕ができなくなった」「後継者がいないので

ハウスを解体したいが費用がかかる」というような農家の課題から生まれたのがビニールハウスの事業です。電気工事の経験（金属管を扱う技術）を活かし、古くなったビニールハウスや遊休ビニールハウスなどを買い取り、それらが必要としている農家の農地に施工・修繕を行います。「必要としている新規就農者は多いです。新しく買うと初期投資がかなりかかるので、コストが抑えられるという点で、市内に限らず県内、宮城からも問い合わせが多くなっています」と語る小野寺さん。「同じ農業に関わるものとして、今後も農家さんの悩みに応えられるような事業を展開していきたい」と続けます。今後の目標は「自社を農業研修受け入れ法人にすること。現在は農業農村指導士※を目指し、日々新しい農業運営の形と向き合っています。※5年間農業に従事し、地域農業の発展と農村地域活性化に意欲的に取り組んでいる優れた農業者を、岩手県農業農村指導士として岩手県知事が認定するもの



- 1 代表取締役の小野寺隆好さん。
- 2 母体農場（室根町矢越）に設置されているハウスも、不要になった農家から買い取ったもの。農地1.5aで15棟設置。
- 3 収穫した後の選果作業は最も重要な作業です。

DATA

〒029-1202
一関市室根町矢越字柄杓田77-7
TEL 0191-34-6737/ FAX 0191-34-6738

地域協働体とは？



第8話

行政主導型から地域協働型へ

これまでは**行政主導型**で進めてきた地域づくりですが、これからは**地域協働型**に変わっていく必要があります。地域協働型と言うとコラボレーションをイメージする方も多いと思いますが、一関市の地域協働型は、コラボレーションではありません。一関市の協働の定義が「継続的な話し合いと合意形成」であることから、**地域協働型＝話し合いを基本とした取り組み**と言えます。

行政主導型は、行政で発想し「施策」として画一的に進めるため、取り組みの優先順位は、地域状況を加味したものではありませんでした。さらに、合併市である一関市は広域で、地域の成り立ちや特性、抱えている課題も異なり、公平平等を原則とする行政の取り組みではカバーしきれなくなってきました。そこで、**地域の課題や発想を基に、取り組み優先順位を地域で決め、地域の望むことを優先的に行う地域協働型**に転換していきというのが「協働によるまちづくり」です。

結果として**地域の特色を活かすことが可能**になるのですが、少子高齢化や人口減少により、市政、地域づくりの両面で**資源の有効活用**も考えなければいけない時代。ヒト、モノ、カネ、ジカン全てが限りある**資源で、一切の無駄遣いは許されない時代**になります。コラボレーションで事業するのではなく、行政、地域をはじめ関係する団体や人が集まり、課題や状況を共有し、話し合い、課題解決のために考え、納得しながら取り組むことが「地域協働型」です。

これまで 【行政主導型】		これから 【地域協働型】
画一的に進める	進め方	地域主導で進める
行政	発想	地域
行政区	推進単位	地域協働体
施策	方針	地域づくり計画

集落機能を補完する新たな自治組織の確立～地域協働体～

地域協働型の地域づくりを進めるとき、「定義づけ」すれば発展するかと言ったらそうではありません。地域協働型を進めていくためには、**仕組みを丁寧につくることが必要**で、一関市では、「**地域協働推進計画**」という**行動計画**を策定し取り組んでいます。

第一次地域協働推進計画（平成25年～平成30年）では、地域全体の調整と、推進役を置き、行政との連携を強めることの必要性を重視。そして**地域協働体を設立**することで**地域運営の見直し**を図ることを目的としました。

地域協働体は、集落機能を補完する役割を持ち、基本は**円卓会議を行う話し合いの場**です。集落機能の補完とは、基礎集落ごとに人口の増減や年齢構成のばらつきが目立ち始め、多様な活動を行うための担い手の確保が困難になってきているため、**市民センター単位レベルの広域的な取り組みを必要に応じて行う**ことを指します。**地区民運動会**で選手が足りないから隣近所の自治会で選手の補完をしていることを例に挙げればイメージしやすいかと思いますが、そのような取り組みを日常的な地域づくりに取り入れて**支え合いの仕組みを再構築**すると言えるでしょう？

地域の円卓会議 = 地域協働体

自治会	老人クラブ	PTA
民生委員	市民センター単位	消防団
NPO	地区体協	子ども会
婦人会	自主防災	芸文協

補完性の原則

個人＜家庭＜隣近所＜自治会＜**地域協働体**＜市

地域協働体の設立は、これまであった**基礎集落を廃止**するということではありません。むしろ、**基礎集落機能を重視するために、補完の仕組みを構築**するものです。

慣習的行事が多い自治会に対して、地域協働体は、**地縁でつながる様々な人、組織、団体が連携**し、子どもから高齢者まで性別に関わらず、**単位自治会だけでは解決が困難なことを、地域の総合力で解決**することが目的であり、自治会とは性格が異なります。

そのために、**地域や各種団体の課題、想いを持ち寄り議論する円卓会議の場**が重要なのです。

養蚕の裏側を大調査！

養蚕農家さんとJAいわて平泉さんにご協力いただき、貴重な養蚕業の現場を見学してきました。養蚕は春から秋までに5回行いますが、蚕が孵化し、繭になるまでは約1カ月を要します。その間、養蚕農家さんは朝から晩まで蚕に餌を与え、温度・湿度等の管理をします。蚕はとてもデリケートな生き物！苦労も多い養蚕業の裏側を調査してきました！



<取材協力> 養蚕農家 金田清さん / JAいわて平泉 営農部園芸課 監理役 村上悟さん
<参考文献> 農研機構(2018)『カイコってすごい虫！』 JAいわて平泉(2018)広報こしえる『美しい伝統産業を支え続けて！』

次号は… 当センタースタッフが繭を使ってあることに挑戦！？
養蚕農家の方々のご紹介などをお届けします(^^) /

地域の‘気になること’をセンタースタッフが独自に調査！

ミッション 39 仕事の流儀 No.1 「養蚕」 前編

日本には昔から、脈々と受け継がれてきた技術や風習、伝統があります。一関市内にも絶えることなく受け継がれてきたもの(お仕事)があるのでは？ということで、昔から伝わる“**今では希少なお仕事**”を大調査します(「仕事の流儀」シリーズ)。今回は知っているようで知らない『**養蚕**』の世界。一関市弥栄で養蚕農家を営む、**金田清さん**に約3ヵ月の密着取材をしてきました(2回シリーズ予定)。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

「養蚕」の歴史

調査にご協力いただいた金田清さんは江戸中期から代々続く養蚕農家です。近年、養蚕に触れる機会が少なくなりましたが、金田さんは少しでも多くの子ども達が日本の伝統産業である養蚕に興味を持つてもらえればと、毎年、地元の弥栄小学校3年生の総合的な学習の一環で蚕の生態や養蚕業の歴史について教えています。

さて、金田家が江戸中期から養蚕業をしているように「養蚕」の歴史は古く、紀元前15世紀頃に中国で始まったと言われています。当時の絹織物は美しく貴重な品だったため、商人は危険な目に遭いながらも絹織物を求め、その際に通ったのが「シルクロード(絹の道)」です。

その後、日本やヨーロッパに伝わったとされ、江戸時代に入ると日本各地で養蚕が盛んになります。明治時代になると、フランス人を日本に招き入れ、その指導の下で繰糸機や蒸気機などを輸入し、群馬県の富岡に日本発の器械製糸場を建設。これが平成26年に世界遺産登録をされた富岡製糸場です。富岡製糸場は日本各地から工女を受け入れ、最新の製糸技術

を全国に伝える役割も果たしていました。

昭和に入り、安価な化学繊維であるナイロンの普及、輸入絹織物の増加などが重なり、全国の養蚕農家の数は激減。最盛期の昭和4年には221万戸あった養蚕農家も、平成30年には293戸にまで減っています。こうして日本における養蚕業は急激に衰退していき

一関市における「養蚕」

それでは当市における養蚕の歴史についても見ていきましょう。

一関市は、北上川下流農業地域ということもあり、昭和初期から養蚕が盛んな地域で、千厩町と竹山(現在の市役所)に製糸工場を造りました。また、花泉町老松には常に冷たい風が吹く「小沼風穴」という場所があり、そこに蚕の種(卵)を貯蔵する保冷庫を設置。風穴の温度は常に7度のため、卵が孵化せずに休眠状態となり、昔は年1回しか行うことが出来なかった養蚕を、孵化の時期をずらすことで回数を増やし、繭を大量に作る事ができました。「風穴」は全国各地にあったようですが、現在確認できているもの

は少なく、とても貴重なものが花泉には残っていると言えます。

また、当市でも各地で行われている小正月行事「繭玉ならし」も、餅の団子を繭玉になぞってミズキの枝に飾り、蚕の成長と農作物の豊作を祈ったといわれているなど、養蚕に纏わる旧跡や伝統が今も尚、受け継がれています。

全国でも293戸まで減った養蚕農家ですが、いわて平泉農業協同組合管内(以下「JAいわて平泉」)の一関・平泉地方では、8戸の養蚕農家が養蚕業を続けています(平成31年度時点)。最盛期に比べるとはるかに少なく、後継者不足や養蚕農家の高齢化などの問題が深刻化していますが、日本の養蚕業の約3%を一関・平泉地方が担っています！



花泉町老松にある「小沼風穴」。現在保冷庫はありませんが、冷風は通っているのでとても涼しいです。

